小さい鳩の坊やのお話

武田雪夫

1

これは、小さい鳩の坊やのお話ですよ。

まんまるなお窓のついた鳩のお家がありました。あるお家のお屋根の下の壁のところにあつたんですつて。その鳩のお家のあたたかいあたたかい巣の中で、鳩の坊やが生れました。小さい小さい、かはいゝ坊やが、二羽も生れました。

鳩の坊やは、じきに眼が見えるやうになりました。母さん鳩と一しよに、巣の中に坐つてゐますと、まんまるなお窓から、青い青いお空が見えました。青い色紙を、まるく切つたやうに見えてゐました。

一羽の坊やが聞きました。

「母さん母さん、あのまるいものは何でせうね。」

「あれは、お空ですよ。」

さう、母さん鳩が言ひました。

するこ、もう一羽の鳩の坊やが聞きました。

「お空は、あんなに、まるくて小さいの？」

「いゝえ、それはそれは大きくて、ひろいのですよ。今に歩かれるやうになるこ、よく見えますよ。」

さう、母さん鳩が言ひました。

2

父さん鳩こ母さん鳩は、二羽の坊やを大事に大事にしました。毎日まい日、かはるがはる、まるいお窓から外へ飛んで行つて、おいしいご馳走をこつて來ては食べさせました。

そのうちに、鳩の坊やたちは、自分で立てるやうになりました。

ある日、鳩の坊やたちは、巣から出て、お家の中を歩いて見ました。そして、まるいお窓のこころまで行きました。

お窓から、小さなお顔を出して、はじめて外の方を見た鳩の坊やたちは、ほんこにびつくりしてしまひました。

まあ、そこから見るこ、お空は、何て廣いものでせう。外は一めんに、ひろい廣い青いお空です。それに白い雲も、ふわふわこ浮いてゐます。

一羽の鳩の坊やが言ひました。

「お空は、ほんとに廣いのね。母さん。」

「えゝ、今にあそこを皆で一しよに飛びまはるのですよ」。

さう、母さん鳩が言ひました。

鳩の坊やは、こんごは、お家のすぐ下の方を見ました。目の下には、きれいなお花のごつさり咲いてゐるお庭が見えました。

一羽の鳩の坊やが聞きました。

「あの、きれいなところは、何なの？母さん。」

すると、お母さんは、

「あれは、お庭のお花畑ですよ。」と言ひました。

3

その晩です。

鳩の坊やたちは、父さんや母さんと一しよに巣の中へ坐つて、お話をしてゐました。

まあるいお窓から、外の方が見えました。暗いお空にお星さまが、二つも三つも光つてゐるのが見えました。

お星さまも、きつと何かお話をしていらつしやるのでせう。みんな、チカチカチカチカ光つてをりました。

鳩の父さんが言ひました。

「さあ、坊やたちは、ずゐ分大きくなつたから、もう、そろ〳〵、こび方のお稽古をはじめなくては、いけないね。」

「ほんとに、さうですね。そろ〳〵はじめませうね。」

さう、母さん鳩も言ひました。

すると、一羽の坊やが聞きました。

「こび方のお稽古は、いつからはじめるの？」

「明日から、はじめませう。」

さう、父さん鳩が言ひました。

そこで今度は、もう一羽の鳩の坊やが聞きました。

「どこで、飛び方のお稽古をするの？」

すると、母さん鳩が言ひました。

「さうね、こゝで致しませう。このお窓のところから、そら、今日のお晝間見た、あのきれいなお花畑へ飛んで見ませうね。坊やたちが飛んで行つたら、きつと、こゝのお家の坊ちやんやお孃さんたちが喜んで、やはらかなお豆をバラバラこまいて下さいますよ。そしてポッポ、ポッポ、ハト、ポッポと言つて、呼んで下さ

つたら、クークークークーこないて、すぐにお返じをするのですよ。」

さあ、鳩の坊やたちは、ほんたうに、うれしくなりました。それで、もう、すつかりのびた両方のお羽根をバタバタさせながら、いま教つたばかりのお返じをしました。

「クークークークー。」

そして、すぐに、おねんねしましたよ。だつて、明日は早く起きて、飛び方のお稽古をするのですもの。おこなしくおこなしくおねんねしましたこも。

はい、それでは、これで、小さい鳩の坊やのお話はおしまひ。